地震・津波から身を守れ 下　的確情報で素早く避難

地震とともにやって来る津波。周囲を海で囲まれた沖縄では、津波から身を守るための対策はとても重要です。

海で地震が発生し、海底が瞬間的に跳ね上がると、海面も上下に動いて大きな波となって四方に伝わっていきます。これが津波です。津波の伝わる速さは、陸地から遠く離れた外海ではジェット機並みですが、海岸に近づくにつれて遅くなります。波と波の間隔が短くなる分、高さが高くなります。

かなりの速さで陸上を駆け上がるので、とても逃げ切れません。高さ0.2～1㍍の津波が予想されるときは「津波注意報」、1～3㍍のときは「津波警報」、3㍍以上のときは「大津波警報」が発令されます。

1771年に八重山・宮古地方をおそった「明和の大津波」は、陸上を駆け上がった高さが30㍍以上、石垣島と宮古群島で約1万2千人が亡くなりました。

遠く離れた南米のチリ沖で1960年に起こった「チリ地震津波」も県内に被害をもたらしました。沖縄本島の中部と北部で海面が4㍍近く上昇し、9カ所で橋が流出、家屋の全・半壊も100戸を超え、3人がおぼれて亡くなっています。

旧羽地村（現名護市）の真喜屋小学校の校庭の写真を見てください。デイゴの木に机とイスが引っかかっています。津波は早朝5時30分ごろにやってきましたが、もし1～2時間遅くやってきていたら、「真喜屋小学校の全児童が犠牲になったかもしれません」と、当時の児童は振り返っています。

何よりも大切なことは、的確な情報に基づく素早い避難です。群馬大学の片田敏孝教授は、岩手県釜石市の小中学校の防災授業で、「避難の三原則」を強く訴えてきました。①想定にとらわれるな②最善をつくせ③率先避難者たれ―という教えで、東日本大震災では多くの児童とその家族の命が救われています。

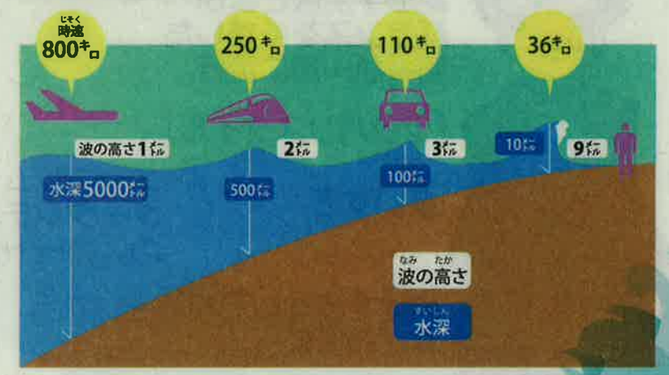
津波の浸水地域や避難場所を示した地図をハザードマップといいます。自分の住んでいる地域のマップを調べておきましょう。学校にいる時、あるいは家にいる時に津波が来たら、どの道を通って避難したらいいか、実際に歩いて確かめておきましょう。

（NPO県建築設計サポートセンター・天野輝久）

チリ地震津波で、大きな被害を受けた真喜屋小学校。校庭のデイゴ（高さ約4㍍）に、流された机やイスがひっかかってしまいました＝1960年5月24日

地域マップで逃げ道調べよう

命を守る避難の三原則

想定にとらわれるな	自然災害は想定をはるかに上回ることがある。自分自身で判断せよ！
最善をつくせ	一番安全なところに走って逃げよう。決してあきらめるな！
真っ先に逃げろ	一番最初に逃げだすあなたの行動が、みんなを引っ張り、多くの命を救う！

津波の速さと水の深さの関係